

としてもう一度協調會の立場を説明することとし、翌世  
一日飯田參事は三隅囑託としてハレフィル氏を訪問し  
たが不在のため、翌六月一日再訪した。ところが先方の  
方から口を切つて「明後二日經濟科學局勞働課長のコー  
エン氏か、協調會の添田會長かの両事務理事に會い  
たい由で」と言ひ出し、「これは頗る嚴肅（セイリアウ  
ス）な用件である」と附け加えたといふことである。こ  
ちろん提出した書類はまだ検討される暇もないし、昨日  
コンスタンチノ氏を訪問したときは、ハレフィル氏はホ  
ウコーエン氏と會談してのこと。この際と言ひ出されたこ  
うした話か何を意味するかは、すぐ豫感されたのであつた。

### 第二項 解散に関する懇談

(一) 懇談前の豫測 昭和廿一年六月三日（月曜）コー  
エン氏を訪問すべく、添田會長のほか余松村の両名なら  
ぬに石井三隅の両囑託が協調會内に參集した。余は本日  
會見のいの中をセイリアウスなる用件を、(1) 解散の豫告  
、(2) 役員の改造（A 勞働關係者範圍の擴大と追加、B 追  
放關係者の追究、C 構成方式の根本改正）、(3) 會館の一  
却または全面利用、(4) 性格の改造、(5) 立退の豫告、(6) 基  
金の利用のしかたなど豫感し、これを紙に認めて參考と  
した。けれど従來の経過から見て解散の指令は決してな  
いか、何等かの形での豫告はあり得ないことではあるま  
い。また役員も目的のためについで會の性格と勞働者本位